

令和2年度 第2回神戸市外国人市民会議 議事要旨

市長室国際部国際課

日時	令和3年3月25日(木) 13:00 ~ 14:45	場所	Zoomによるオンライン会議
出席者	兵庫県立大学経済学部教授 陳来幸、神戸大学理事・副学長(国際・評価担当) 吉井昌彦、 在日本大韓民国民団兵庫県地方本部事務局長 金相英、学校法人兵庫朝鮮学園理事長 金錫孝、 神戸華僑総会事務局長 石鋒、ベトナム夢 KOBE 代表 ズオン・ゴック・ディエップ、在日本印 度商業会議所 ニシャット・トラバリ、関西ブラジル人コミュニティ CBK 代表 松原マリナ、 ひょうごラテンコミュニティ代表 大城ロクサナ、神戸菅原奨学金奨学生同窓会 林文勇〔敬 称略〕 ----- 市長室国際部国際課(事務局)、神戸国際協力交流センター(KICC)、保健福祉局予防衛生 課・ワクチン対策室、経済観光局経済政策課		
議事	(1) コロナ禍の対応状況について ① ワクチン接種体制 ② 事業者支援の取組 (2) 神戸国際協力交流センターの拠点拡充・名称変更について (3) やさしい日本語の活用の推進について		

1. 開会

2. 議事

(1) コロナ禍の対応状況について

① ワクチン接種体制

(予防衛生課・ワクチン接種対策室より資料に沿って説明。)

委員) 接種の予約はいつからできるか?

対策室) 未定(調整中)。だいたい2週間前からと考えている。最初はワクチンの量が限られているため、当面は短いスパンに区切って提供していくことになる。

座長) 2週間前というのは、接種を希望する日の2週間前という意味か?

対策室) その通りである。

委員) (コールセンターでは)ベトナム語対応があるとのことだが、相談時間等は同じか?

対策室) 同じ。3者通訳での対応になる。

委員) 通訳の予約は必要か?

対策室) 不要。

座長) 集団接種会場に行けば、予約なしでも通訳サービスは受けられるのか?

対策室) その予定だが、現時点では未定。またホームページや国際課を通じて案内する。

座長) そうすると予約が必要なシチュエーションとはどういう場合か?

対策室) 接種に当たっては、必ず接種の予約が必要となる。

委員) コールセンターはいつからか? スペイン語もあるとのことなので、すぐにでも案内したいが。

対策室) すでにオープンしているので、いつでも相談できる。すぐに案内してもらって構わない。

委員) 以前ハガキが届くと聞いたが、ハガキは届かないのか?

対策室) 接種券(クーポンのようなもの)と案内文が対象者に届くようになっている。

委員) 連絡は何語で来るのか?

対策室) 接種券と案内文については、日本語のものが届くが、現在案内文については翻訳を進めているので、ホームページや国際課を通じてそちらも案内する予定にしている。

委員) 日本語だけでは日本語ができない外国人にはわからないと思うので、封筒などに一言「ワクチン」とだけでも多言語で載せられたら助かると思うが。

対策室) 既に高齢者配布用の封筒は発注済みのため、今から変更するのは難しい。次回以降の発送の際、対応を検討させてもらう。中の案内文にはタイトルのみ英訳も載っている。

座長) 次回からでも対応いただければ。

②事業者支援の取組について

(経済政策課より資料に沿って説明。)

質疑なし。

(2) 神戸国際協力交流センターの拠点拡充・名称変更について

(K I C Cより資料に沿って説明。)

- 委員) 3つ拠点ができるのはいいと思うが、新たに設ける拠点で行うのは日本語学習だけか？
- K I C C) 日本語学習拠点を増やすことが重要だと考えているが、相談窓口や地域との交流についても今後検討していく。
- 委員) どのように地域との交流イベントについては周知していくのか？
- K I C C) これまでもホームページ等で案内してきたが、さらに見やすくなるようホームページを全面的に改定する予定。
- 委員) その点を少し懸念している。皆がホームページを見るわけではないので、防災ネットのように、登録すれば案内が届くような仕組みがつかれないか？外国人が増えてきているので、地域の日本人と外国人の交流はますます重要になってくると思う。
- K I C C) これまで国際交流フェアの実施等を通じてできたネットワークもあるので、メーリングリストなどでも案内を考えている。また広報紙の3月号にもKICCの多言語相談や日本語学習について掲載したが、このような発信も今後続けていきたい。
- 国際課) 今回初めて1面全てを使って広報をした。多くの人にKICCを知っていただき、利用するとともに、外国人の方を案内していただければと思っている。3拠点を作っても利用がなければ意味がないので、今後も発信に力を入れていきたい。
- 委員) KICCに名称変更するということが、新長田、三宮、御影のそれぞれの拠点の名称はどうなるのか？また三宮の拠点では相談業務も行うということだが、御影の拠点では行わないのか？逆に御影では地域交流はするが、三宮ではしないように説明資料の文言だけを読むと思えるが、その理解で正しいか？確かに広報も重要だが、以前から立地条件の重要性を訴えてきた。知名度の高い区役所の中に拠点を置くのはどうかと以前も提案したが、こうしたことは検討したのか？
- K I C C) 一つ目の質問についてだが、まだ名称は決まっていない。案では三宮が「三宮にほんご学習プラザ」、御影も「御影にほんご学習プラザ」となっている。現在日本語学習に力を入れているので、名称もその点が伝わるようにと考えている。二つ目の質問については、現在のところ三宮の方は日本語学習とワンストップ相談を業務として考えており、地域交流は考えていない。逆に御影の方ではワンストップ相談は考えていない。ただ職員はいるので、相談があれば適切な機関につなぐようにする。三つ目の質問については、そのような意見があったことはもちろん承知している。今回は初めてセンターを分ける試みで、理想は9つの区にそれぞれ拠点があることだろうが、まずは3つにして頑張っていきたいと思っている。
- 委員) 9区すべてに今すぐ拠点を置いてくれという訳ではない。むしろ最初だからこそ立地が重要なのではないか。便利な場所にあることはもちろん大事だが、知名度も重要。
- 国際課) 今回の拠点整備は日本語教育に重点を置いたものとなっている。相談業務ということであれば確かに区役所というのも一案かと思う。実際中央区には既にワンストップ相談窓口を設けている。相談窓口を今後増やすという際にはご提案いただいている内容も検討することになるかと思う。
- 委員) 本部機能を置く場所を検討する際に、長田区役所という案はなかったのか。これは答えは知らないが意見として申し添えておく。
- 委員) 新長田、三宮のワンストップでは何言語の相談を考えているのか？これまでは曜日毎に対応言語が違ったかと思うが。
- K I C C) 今まで通り新長田の本部では曜日を変えて11言語の対応を考えている。
- 委員) 今まで20年間外国人の支援に携わってきたが、外国人支援に関わる人は知識がなかったら相談に応じることができない。適切に情報を提供することができないと損をするのは外国人。KICCの相談員の人たちには、正しい知識をもって、相談に応じ、説明してもらいたい。言語ができることが一番重要というわけではない。相談員は研修を受けるだけでなく、経験が大事。

- 委員) KICC はあくまで「つなぐ」役割なのか？それとも質問にその場で答えてくれるのか？
K I C C) KICC ではその場でつなぐようにしているので、どこかの窓口に行ってくださいではなく、タブレット等でその場で適切な機関につないで、問題解決を図るようにしている。

(3) やさしい日本語の活用の推進について

(国際課より資料に沿って説明。)

- 委員) やさしい日本語で資料を作ってもらいたいのがありがたいが、まったく日本語ができない人にはわからない。やさしい日本語で情報発信すれば外国人皆に伝わるとするのは勘違い。またある程度聞いてわかる人でも、読み書きが苦手な人もいる。多言語対応も重要であるということも忘れないでほしい。
- 国際課) 日本語初級者にはやさしい日本語を使っても理解度は半分程度というテストの結果もあったので、日本に来たばかりの人に対しては多言語対応も必要と考えている。うまく使い分けていくとともに、日本語がわかる人を増やしていくためにも外国人の方の日本語学習環境の整備に力を入れていきたい。
- 委員) 少し違った観点からだが、イラストや漫画を使っただけの情報提供も効果があるのではないかと。また動画を作成して区役所などで流したり、USBに入れて配布するというのも効果があると思う。こうした点についても並行して検討してもらえればと思う。
- 国際課) イラストを使うことは心がけていきたい。またやさしい日本語の取組で一番苦労したのは、情報の整理やレイアウトの工夫の点。そもそもこれまでの文書は日本人にとっても難しいものが多かったと思う。日本人にとってもやさしい文書を作っていきたい。
- 委員) 漫画はとっつきやすくわかりやすいし、インパクトも大きいと思うので、導入を検討いただけないか。
- 委員) 何名かの友人がやさしい日本語を体験したが、話すスピードが速かったりすると、理解できないことがある。ジェスチャーを交えることも重要。実際に物を示して説明するのも大事だと思う。対面で資料を説明する場合はどうするのか？
- 国際課) 今回取り組んだのは文書をやさしい日本語化することだったが、今後説明の際のコミュニケーションの工夫についても考えていきたい。
- 委員) 今回のテストに参加したのは学生なので、わかる人が多かったということもあると思う。仕事で来ている人は、会話はできても読むのが苦手という人もいる。日本語の理解力については、在留資格が違くと変わってくるので、そういった点についての検証も必要だと思う。
- 国際課) 今回の検証は確かに日本語学校や専門学校の協力のもと行った。今後外国人労働者の方にも気軽に日本語学習してもらえるような体制というのでも考えていきたい。
- 委員) やさしい日本語は効果があると思うが、ふりがなをふるだけではやさしくはならない。日本語教師の人たちがチェックしているという話もあったと思うが、そうしたチェック体制も整えているのか？
- 国際課) 職員みんながやさしい日本語で文章を作れるようになることが目標だが、職員個人ではやさしい日本語の質が担保できないので、多文化交流員やKICの初級日本語教室の生徒などの外国人の方にも見てもらいながら、文書のわかりやすさをチェックする体制を整えていきたい。
- 委員) ただ言葉を変えるだけでやさしい日本語にはならないので、レイアウト等も考えてもらいたい。
- 委員) 小学校の3~4年生にわかる文章を目指してもらえれば。小学生にも意見を聞いてほしい。
- 副座長) やさしい日本語は大学でも議題となっているので、今日は重要な話を聞いた。
- 委員) やさしい日本語の取組については、日本語教育の総合調整会議の時にも聞かせていただいた。素晴らしい取組だと思う。せっかくKICCも日本語教育に長年取り組んでいるので、連携して情報発信ができるといいのではと思う。
- 委員) 毎回この会議は神戸市の施策を紹介して議論するというスタイルだが、今後委員から議題を吸い上げて行うというスタイルも年に一回は取り入れるなど検討してはどうかと思う。
- 委員) 事業者支援の協力金などに関し外国語のパンフレット等の情報があれば委員のほうに送ってもらえればと思う。

座長)

委員から議題を吸い上げて議論するというのは検討していきたい。かつては教育について熱心に議論した時期もあったかと思う。また外国人への差別事象などについても、情報共有できればと思う。

以上